

○金井部会長

それでは、今度は、福島さんに市民の立場からどういうふうに川口市政を見ているのかということについてお話いただいて、なるべく意見交換もしたいという希望でしたので、そういう感じでこれより始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

○福島氏

こんばんは。お呼びいただきまして、どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

基本的には、私の30分の話もできるだけ簡単にとったものですから、そのわりに話し出すとやはり私、おしゃべりなものですから、止め処もないもので、そういう意味では、事前にこういう形でたくさん字面をうって申し訳ないのですが、まとめて参っております。言い切れない部分、申し伝えられない部分というのもあると思いますし、逆にいろいろこれをご縁でご連絡をいただいてやり取りさせていただけてもということです。それから、本日の経緯と私の立場ということですが、皆さん、永瀬さんは言わずもがなですし、中山さんも非常に明確な立場で来られておりますが、私はというところで、実はお声がかかったときの経緯をブログのほうにすぐにあげまして、要は、ご承知をいただいたんでしょうか、ということで掲げまして、ちょっと読んでいただくとどういうふうに受け止めていこうかということがご理解いただけるかと思いますので。テーマは「お呼び出し」という一般の方にもわかりやすいように非常に平たい文書で書いてますので、あとで起こしてもらっていただくとときもブログのアドレスがわかればそのままお使いいただけますので、事務局の方も。

（以下の段落は、ブログ「お呼び出し」の内容の朗読。）

「（お呼び出し）を受けてしまいました。自治基本条例策定委員会第1検討部会から、どうも常日頃から何かとうるさい福島を呼びつけて釘を刺しておこうということらしく、というのは冗談で、昨日、企画財政部次長兼総合政策課長の押田さんから電話が突然あって相談を受けまして、追って正式なヒアリングの依頼文書（この写真に載っているんですけども）こういう文書を正式にいただきまして、その発信は部会長名、私の個人あてということで受け取りました。これは役所の方に行って受け取ったと。依頼の経緯はこちらの当該部会での検討にあたって策定委員以外からも話を聞こうという部会長の金井さん、東大教授からの提案を受けて押田さんが私のことを思い出して連絡されたというわけです。かねてより押田さんには、当件での私からの「市長への手紙」での対応、これはブログに以前書いているんですけども、それ以来、一度こちらからお訪ねして、お話したり、2回目の委員会の会場でも傍聴でお会いしたり、押田さんとは御面識があったものですから、

で、お声かけいただいたんだらうということで納得して、ヒアリングを受けたと。それで、うちに帰ってから、こちらの今日、御欠席の林さんとは以前から懇意にさせていただいたもんですから、こういう話があったってねということで、どんな話があったのかなということ連絡をとったら、ようやく返事がありましてですね。そこで、後で聞いたのは、その林さんに聞きますと、第2回目の検討部会の席でオンブズマンについて話があったと。公募委員から監査請求などの話が出て、これを受けて、市議会議員さんから例の通信簿の話も出たということで、これに部会長の金井さんの方で大変関心を持たれたというふうに、なるほど、結構早い対応ですね。非常に、その話が来たら、私のところに話に来るのが早かった。おいおい前市長の永瀬さんなどにもお声かけしようという話も上がっているそうです。その際にはぜひ傍聴したいと思いました。もうすでに先日、やられましたが。

とにかく、きょう、30分お時間をいただけて、30分ディスカッションとことです。ちょうどこのブログを書いた今日とその翌日に、法政大学を会場にしまして「市民と議員の条例づくり交流会2007」というイベント、これは御講演をなされた辻山先生なんかもパネリストで参加というイベントがあって、そこにも私自身参加の予定だったもんですから、ちょうどいろいろまとめていた最中ということで、お話しすることもいいタイミングで用意できておりますと。ちなみに、今回の検討部会も傍聴可です。これは皆さんおいでください。」ということですが、だれもおられないので大変残念ですけど。

という経緯でして、要はオンブズマンというお話があったという御理解をされている方もおられると思うんですけども、私としては、金井先生もね、御名刺お渡して、裏にいろいろ、あっちゃこっちゃ、団体、市民のグループで顔を出させていただいているんですけども、後で説明しますが、そういうところから、いろんなところでいろんなところに顔を出して、市民の活動をしている一市民ということで来させていただきました。当然オンブズマンの話、それこそ例の通信簿はどんなふうにつくったのという質問があれば、それは忌憚なく知っていることをお話しさせていただこうと思いますが、それはかわった者としてお話しさせていただくんであって、オンブズマンを代表してということとなると、これはまたお話が違うと。むしろオンブズマンの代表の方にも相談しました。「ああ、行っておいでと、ただしオンブズマンとして呼ばれたら、いつでも私行くからねと、いつでも御連絡ちょうだいなと、だから今回はあなたが行ってくるんだね」という形で受けとめておりますので、御承知をいただけたらということをもまず申し上げます。

今日はたくさん資料があるので、その資料の説明をちょっとざっと御説明しておきたいんですが。すべてを30分で扱おうなどとは決して思っておりません。基本的には3つの資料と、あと時間の許す限りか、もしくは質疑の中

で扱いがあればということで、その3つの基本的な資料は、左上にこの委員会の第一部会のヒアリングの資料ですと書いてある、1番、2番、3番というのが3枚あります。基本的にはこれですし、3番目に関しても、基本的にはページにまとめたつもりですので。4枚目に写真がついたのがありますが、これが自己紹介がわりの私のプロフィールでございます。これ見ると、どういう人間なのか、ざくっとわかっていただけるんじゃないかということと、あと御縁があればということで連絡先も載せてますのと、あと下にネットでのプロフィールですから、ここにアクセスしていただくと、私のブログなり何なりにリンクがつながってと。御質問がありましたら、御連絡いただければと思います。

それから、あと、今日、一番冒頭の方にもお話をしようと思っていること、これは市民がというところで考えると、一個人個人に戻っていった自治ということにつなげていくのに、どんなことを考えているのかということで、ちょっと参考資料的にパワーポイントで紙芝居を、こういうのを3コマずつしているものが配布資料としてあるかと思いますが、こういうのをつけています。

それから、あと、今、冒頭に紹介したこのブログの記事の中で、法政大学であったイベントでまとめていた資料と。これは当日、200人ちょっと、250人ぐらい、全国から議員さん方と市民の方が集まっているんなディスカッション、パネルディスカッション、講演等をやったと。そこで、市民の側から問題提起を得て進めるというセッションがあるからどうぞと言われまして、私からお出しした資料です。ですので、その会場で皆配っています。御参考までにお付けしてお配りします。

それと、あと、最後の資料はオンブズマンの話が出たものですから、オンブズマンで過去に、いつもいろんな裁判を手がけておるんですけど、その中で代表的なものを2例だけ参考までにつけております。こういうことをやってきたということで、後でお読みいただけたら、もしくは今読んで何かあれば、お聞きいただけたらなと思います。

本日お話しするのは、私も、大体今調子を聞いていただければわかるかと思うんですが、文章に書きますと、特に市民の側から見ると、非常に厳しいラジカルな感じに受け取られてしまいます。私もある方とお話をしたときに、私のホームページを見て関心を持って、じゃ一度会って話をしましょうかというふうになったときに、実際会ってみたら、ああ、もっとおっかない方かと思ったと言われましてですね。だから、そういうところでは基本的にやっぱり責め合ってもしょうがないですのでね、建設的に何かしていこうというところでお話をしていきたい。ただし、文章に書いてしまうと、どうしてもきつくなるというところがあるところを御理解いただいて、書いてあることは書いてあることで、必要なことを書いたつもりです。当然厳しくなるとこ

るもあります。これはいろんな立場それぞれ、後で話しますが、市民にとっても厳しい話がありますです、ということもある中で、そこら辺を踏まえておいてお話を聞いていただければいいかなと。

それでは、やっと本論に入るんですけども、資料の中で順番に1、2、3で説明するのではなしに、実は結論から先に行きたいという意味で3番の、しかも裏の方、これですね、「歴史とは」と偉そうに書いてあって大変恐縮なんですけれども、特に金井先生がおられる前で「歴史って何？」という説明をするのは非常に辛いものが実はあったりもしながら、改めてちょっとそれぞれ再確認へと戻るという意味で、私なりの考えをちょっと書かさせていただきました。

特にここには書いてないんですけども、永瀬さんのお話を伺ったときには、戦前のところから来て、戦中、戦後のところというのが非常にポイントであって、その経緯、結果を踏まえて今があるんだというところで、最後に御自身の部分をお話しされたと思うんですが。ある意味、今日お話しする部分は、そこから後から現状に至る部分、近い、非常に近未来というか、近過去の部分で、これを話すというのは非常に厳しいんですね。というのは、直に影響がある方が目の前にいる可能性があるという意味では、大変扱いにくいということがあります。

まず、そこに書いてあるのをまず歴史というふうにとらえると、まず何があったのかという検証だけにとらわれてしまいがちですけども、ではなくて、いや、もちろんそれもあるんですけど、それだけではなくて、なぜそういうことが起こったのか、その周囲の動きなり、もしくは流れなり、もしくはその当時の物の考えなり、その歴史に残っていても、いなくても、その当時の人たちの考え方がどうだったのかということを酌みとった上で、研究、考えた上で、今がこうなっているんだということの理解、もしくは、じゃ今後どうなるべきか、どうしていけばいいんだろうということを考えるための一分野というふうを考えるべきなんだろうと。単に昔のことをつつき回すだけじゃないんだと。もちろんこれはこう書いてしまうと当たり前なんですけれども、意外に、昔ああった、こうだったにとらわれ過ぎちゃう部分とか、もしくは、全部細かくは言いませんが、現状、国政においても実際歴史解釈なんていうことで非常にもめたりなんかするということを考えますと、歴史って何だろうということを改めてその原点に返って、で、この検討が進むお役に立てばということの一言でございます。

それ以降はもう上の3分の1ぐらいを説明するのみで、もう下は、ある意味、書いてしまえば当たり前のことです。いわば、表面に出てきているものだけで歴史を見ても、やはり実際何があったのか、もしくはこれから何をしていけばいいのかというのはなかなか見失ってしまう、もしくはわからないで見過ごしてしまうところから、本当によかったと言われることがよ

かったのか、そのままのみにしていいのかとか、逆に悪かったと言われることは、タブー視してね、避けて通るとか、もしくは、あれはもう忘れろとかいうことではなかろうということを改めて見直してみてもいいんじゃないかと、いや、むしろ見直すべきなんだと、という問題点があります。そういうことを踏まえまして、現状に近い話、今までであったことということで、関連的な話も随分多いですけども、お話しさせていただきます。

まず、今日、申し上げたいことの結論なんですけれども、表の3番の、こちらですね、上に網かけになって、下が四角になって、真ん中に矢印がある、3と書いてあるやつなんですけれども、非常にちょっと極端な話を書いています。このまちが最低最悪の状況になった場合、どうなるかという話なんですけれども、実は私、見たところでも、今でも、全くないとは言いませんけれども、市民なり、もしくは行政、議会と一般の方々、もしくは一般の方々同士の中でのお互いの関心であるとか、接点であるとか、距離であるとかということが果たして十分なんだろうかということを問題点で上げてます。少なくとも十分でないというふうに感じられることはやはり多々あると思いますし、私から申し上げますと、全く十分でない。このままですと、そこに書いてあるとおり、もしも、今すぐにでも直下型の大地震がこの瞬間起こってもおかしくないわけです、この関東地区というのは。特に南関東なんかはそうなんです。そういうところで、そういう、互いの無関心という状況が本当に危ぶまれる以上にはびこっていたら、これはとんでもない状態になるという危機感を持っていますよという文章です。極端な話ですけどね。実際どんなことが起こるんだろうということを考えますと、そんなことが起こってもおかしくない。

これ実際、私、神戸の大震災のときに、現地に、ある縁があって入りました。そこで、神戸の方たちを見たり、もしくはそれ以前からもう神戸の方たちと接したり何なりしていましたので、それと、この川口に越してきて約10年弱たちますけれども、随分違う部分が率直に言っているのを肌で感じて、そう思います。とにかくそういう状況であっても、まだ民度が何だとかいろいろ言いながらも、住んでいる方たちの多くというのは当然ながら失礼ですが互いの関心が高くないということで受け入れていくしかあり得ない。なかなか、互いの関心を積極的にというのは本当に一握りしかいないです。難しいです。100人に1人、1,000人に1人、万人に1人かもしれないっていうぐらい。むしろ、そうだからこそ、そういう人たちがいろんなことを兼任しちゃっているから、あれもかれもやらざるを得ないし、やっているから、なかなかまとまったことっていうのもやっぱりやりにくいというのがとにかく現状です。

そんな中で、どうしていけばいいかという提案なんですけれども、まず、そういう方たちからは、口々聞こえるのは、批判になるかもしれませんが、

情報公開なり、もしくはディスカッションの席というがまだまだ少ない。例えばこの委員会にしても50人という形で始まっていますが、もう既に5月から6、7、8、9月、10月に入りましたけれども、5カ月になっていますが、広報で1ページとして出されるという以外に、それからあとはホームページという形が最近できましたけれども、面と向かってフェース・トゥ・フェースで何かを伝達する、市民に対して話をするというのが、傍聴を待っているという状態なのは、僕はいかがなものかと実際思っています、まだ。

先ほどの総合計画のお話を聞いていまして、随分初期のころから懇談会という形で、まちかど懇談会というのを随分初期から回数を重ねられて、数えてみたら4年のうちで十数回、やっているのが。それから見ますと、そういう意味での立ち上がりも遅いなというところでも、やはり単に、そこに書いていますけれども、無責任なクレーマーだけでね、文句言うのは簡単ですが、それはバツですよ。でも、一緒に何かやってみようという意味では、足りないなあというのが率直なところ。

それから、そういう方たちと一緒に、もしくは、もう行政なり議会議員さんの方たちと一緒にやっていける、そういうふうにするためには、そういう場所を積極的につくれる側がつくっていくべきなんだろうということを、ある意味、市民の側はそれなりにやっている部分が、小さい規模ではあります。もちろん、この今回の委員会でも随分ほかの委員会と比べて傍聴の対応の仕方とかってというのが違うというのは痛感しています。

もっともっと進めるべきなんだろうなということで、具体的な提案として、フォーラム、タウンミーティング、対話集会、パブリック・インボルブメントですね。当初出ているあくまで案だということを拝見していますが、この委員会のスケジュール案の一番下の方に、あと残り3カ月か2カ月ぐらいのところでパブリックコメントを求めるという案が出てますけれども、これでは全く遅いという意見は随分上がっています。それも1人、2人の意見じゃありません。ということを申し添えます。

2ページというか、じゃ、さかのぼって2の方の結論に戻りますけれども。今度は丸がついている、楕円形がついているやつですね。先ほどの中山さんのお話でも、自治というのがこのまちにはどうなのかなあというふうに非常に率直に言われていたのを私も敏感に聞いてしまったんですけれども、全くそういう意味なんです。なおかつ、実はそういった状態になっていることを中山さんから言われて初めて場合によっては気がつく人もいないぐらい、自治というのが、いや、あるんじゃないの、だって民主主義だからというふうに信じ込んで、実は、いや、そんなこと気づきもしなかったと、あって当たり前のものだと思ったけど、よく見てみたら、あったっけ、ということで書かせてもらいました。その自治がまだできてないということすら

知らないことも知らない。

これはちょっと資料が飛んで申しわけないんですが、このお絵かきがかいてあるパワーポイントの資料の2枚目の一番はじっこの方に、こういう一本矢印が書いてあります。紙芝居のやつ、2枚ある中の。ああ、そうです、その次のページぐらいです。難しい話を、それこそ高校の公民の教科書あたりに戻りますと、ソクラテスのですかね、「無知の知」というやつ。「知らないことすら知らないというやつから人は始まる」という話を思い出していただけると、と思います。ただ何となく過ごしているんですね、意外に。そしてそれに触られると、「いや、知ってるよっ！」とか言って、実は知らないことを露呈してしまうような態度に出たりする方もたまにいたりしますけれども。要は、「知らないということすら知らない」というところを素直に認めないと、わかった、いや、もう知ってるよ、いや、できてるんだよ、いや、むしろ自分がやってて、言わなくなってもうあの人はあれできるよな、ということがちゃんと身についているということまで行かない。そのスタートが「知らないことすら知らない」なんですよ。

改めて、このことを書くときに、ある研修で、私、こういうのを受けて、こういう段階で人というのはいろんなことを身につけていくんだなということ整理させてもらったんですが、改めてちょっと思い出したので。これはある集まりで、市民の仲間勉強していく中で使っている紙芝居なんですけど。意外に知っているようでいて知らないということから掘り起こさなきゃならないということからまずスタートしているんじゃないかという現状も含めて、申し上げます。

とにかくそんな状態ですから、本当に自治をつくっていくということになると、条例つくって、ほかのものと整合させて、なおかつ、それに整合化するように人々が動いて行って、それを実際に機能させていくということになると、本当に時間がかかるなということが一つ。それから、そこに関連して、いろんな問題が山ほど実は集積していて、言い出しちゃったら、市民があきれちゃうんじゃないかというぐらい実はお困りなんじゃないかと私も御心配申し上げる部分もあるぐらい。文句言うだけじゃいかんのだと、むしろいろんな問題があるからこそ、いろいろ御協力するなり、理解していかなくちゃいけないんだろうということ。

今回の策定に関しては、委員以外からも、もちろん25人の公募委員の方以外全部で47の方が手を挙げていると、もしくは、いや、忙しく応募もできなかったんだという方なんかを含めて、もしくは市外から関心を持って連絡されてこられたりという方も複数名、私は知っています。という意味では、高い関心を、それこそ辻山先生なんかも、非常にこの50万人、でなおかつ、いろんな、中山さんのお話でもあった多様な側面を持っているまちがどんなふうにつくっていくのか、おもしろそうだよなって、うれしそうな顔をして

まして、「先生、そんな人ごとのような」というふうに言いかけたんですが。そういうところでは、やはり関心が高い。委員会なんかだけでやっている話では、当然もちろんないというところ。

それから、当然ながらそういうところからは、傍聴に何度も来られている方からは、一言発言の機会をと、私、書いてますけれども、発言を認めちゃうと、また、今日も時間が少し長引いているようなのを見てますから、さらに長くなってしまうことを考えると、まあメモを出すだけでもね、させてもらえたら、自分の意見が表明できたり、できるようになるということなんかもお話が出ています。

そういうところからも、先ほど、資料の中の四角のこっちに「市民フォーラム」をしませんかという、こっちに書いたのと同じような御提案を下にしています。とにかくどういうふうにやっていくんだというスケジュールの部分をもっと明確に早くに出せるタイミングにもう既になっているんだろうなということを、今回の委員会に関してもちょっと、そこら辺がまず現状に近いところから始めた、今回話してくださいといったこと、総論的なことなんでしょうね。基本的にこっだけ話できれば、あとは各論と、あとは市民と行政——市民と政府について、それから行政経営について、それから議会についてというこの3つに関してお題をいただきましたので、それをこの青字で書いてある部分にまとめさせているわけです。

それぞれ、これは今言った3つをさらに2つずつに分けて、1つはべき論をまず書かせていただきました。こうあるべきでしょう、こうあるのがやはりいいでしょうと、だれだってそうですよねということと、そして2つ目には、現状、私としてはこう見えますという部分を書かさせていただきました。

お時間になるまでに5分、10分ほどありますので、じゃ、これは一応お話しさせていただいて、それでもうざくとして、あと5分くらいで。

上の方をちょっと向きまして、まず自治、市と市民のあり方に関してですが、べき論に関してはなんですけれども、自治というのはとにかく「自ら治める」と書くんですから、自分たちのことです。で、自分のことだけじゃないですよということです。これに関連しては、ちょっと戻るんですけれども、あわせて、これ並べて、これと並べて見ていただければ。今、2番目で説明させていただいたのは、この楕円形の裏側、「まちでのこんな関係は要らない」というすごい、エキセントリックに取り上げてますけれども、ある漫才師で「こんな何々は要らない」という人がいますのでね、そうすると非常にわかりやすいと思って書かせていただいた。例えば自分だけ、で、我がごとで考えている人たちっていうのはちょっと要らないよと。まちのことなんだから、「私たち」と考えてもらいたいなということ。ほかもちょうとありますが、これはあえてもう忙しい時間の中で説明することもないと思います。御参考に書かせていただきました。

続けます。とにかく自分たちのことなんだから、自分たちでと。現状どうかというのもちよこっとそこに書いてあるんですけども、これはそうあるべきでないという意味で、非常に象徴的に、例えですけど、“下手な野球チームの外野選手のフライキャッチ状態”なんです。オーライ、オーライとか言いながら、距離が3メートルぐらいあいて、ぽてっと真ん中に落ちていて、だれも拾いに行かないか、もしくは、「どうぞお先に」か、もしくは、下手すると、「おれのじゃねえもん」とか言い出すとかね、「何でおれがやらなきゃいけないの」。もっとひどい例になると、一生懸命取りに行った人間に、「おまえ、そこまでやることないよ」というようなことを陰で言う人がいたりするようなことも聞きます、実際。これではということを改めて見ないといけないだろうということです。

それから、あと、何よりも自治体に関しての脅威というのは何かということを考えます。これは私の友人が実は自衛官、空自の二佐をしておりますて、いろいろそういった方面での議論を勉強させてもらったり、議論させてもらったり、意見交換させてもらったりする中で、国の防衛に関して具体的な脅威というのが明確でない限り、戦略というのは立てようがないんですよ。ところで、自治体の脅威って何って言われたんですよ。私がいろんな活動をしているもんですから。私は、はたと即答に悩みましてね。で、あるとき、一番脅威はやっぱり無関心だろうと。だれもまちのこと、お互いのことに関心を持たなくなったら、こんなに脅威なことはまちにとってはないだろうと。最大の脅威だと。それ以外のことは何とかなると、それが何とかないれば。みんながお互いに関心を持ち合っていたら、距離が詰め合っていたら、と。そんなに脅威は逆にないだろう。何とかなるだろう。でも、これをおいての脅威というのはちょっとないなということで、書いて、また改めて強調したいということで、トップに書かさせてもらいました。

あとはもうそこら辺から派生するようなところですよ。例えば歴史的な経緯で主従の関係で、どうしてもまちのことをやってもらうというところから、お上の的に任せてしまうとか、任せてもらったんだから言うこと聞けよみたいなところがあってみたりとかっていうのは、どうしても歴史的にしみついちゃっている部分なんじゃないかなとか、もしくは、それが固定化してきちゃうと、一つところにいろんなものが滞ってしまう、もしくはよどんでしまうということもやっぱり人として当然起こってしまっているわけです。

実際、じゃ一般的にそれは言えることというところで、川口ではどうかというところなんですけれども、まず全般的に関して全国で川口が先進的かというところになると、私、越してきて、すぐに言われたのは、で、まちのことに関していろいろ勉強する中で知ったのは、進んでいるまちとは言えないですよというのが市民活動をやっている方たちの等しい意見でした。町として進んでは、あくまでいいです。

とにかくいろんな市民構成がある。特に、特筆して申し上げたいのは、市民の30人に1人、場合によっては20人に1人の割合で、海外からの方々がいる。これは県下で人口比率からして最大と聞きました。絶対数でも所沢に次いで2位という点から見てもでも、非常にたくさんいらっしゃる。

それから、あとは町会という一つのコミュニティの形。で、これに関してはオンブズマンの方も裁判にかかわりがあって、何度か裁判を取り扱わせてもらっている経緯があります。これは添付の資料を見ていただければ、どんなことが、町会そのものでもあったし、また行政との関係であったかということもわかっていただけたと思います。長くなりますので割愛します。

次、行政経営に関することですけれども、これ行政経営に関して言えばなんですが、まず基本的に、国でもそうですけれども、住む人、そこに関係する人がある中で、その信託を受けて、よく言われる二元代表制っていうやつ、首長がいて、で、議会があるという格好。なおかつ、その中でこの役割分担というのが、片一方は、法制度を整えることです。国で言ったら国会ですけれども、地方自治体の場合、若干ニュアンスが異なってくるんでしょうけれども、それでも基本的には議会側に置くということが基本的な考え方ですよ。それに対して、それを執行する機関の執行の責任者の最高責任者が首長ですという形からすると、果たしてそれがその原則のまま実際運営されているだろうかということになると、議論があるから、先ほど申し上げた、市民と議員で集まってフォーラムをやるなんていうようなことが全国レベルであったりするわけです。それもやはりこのまちの問題点としてもやっぱり等しく挙げられるところであろうと。

具体的になんですけれども、まず、このまちに特徴的に言えるのは、与党層と野党層とが拮抗しているかということになると、これは議会内部ではいろいろやはり細かいところでは、細かいことがあるんだと思います。ところが、まず市民のレベルから見た場合にですね、実はどうなんだろうというふうなときには、なかなかそうは見えないというのが率直な感想です。非常に保守地盤がかたい土地ですよというふうに私の身の周りでは理解しております。

それから、町会の件は先ほど言いましたね。

それから、あと、非常に今回の自治基本条例の件でも行政の方に頑張っちゃっていただいていますよということを伺っています。逆に、市民の側もこれは出おけているんだと、提案が足りない、もしくは具体的な何かしらのアクションというのが、やっている方もいるし、私自身もやっています。でも、十分でないんですよ。結果としてとにかく行政主導だというのが現状であろうととらえています。

それから、実際、これは非常に申し上げにくいんですけれども、端的に、いい機会ですから申し上げておきたいんですが、前回、悪しき、何だ、慣習

とまでは言わなかったですが、ならわし的になっちゃってたかなと言って苦笑いしていましたけれども、行政の中から市長が出てきちゃっているという話を永瀬さんが言われてましたけれども。まさしく、それは現象論的にそうになっているだけじゃなくて、実は本質がそうだから、そういうふうに結果的になっているというふうに見る方も私一人ではありません。

さて、5分過ぎました。あと議会の方ですけども、議会に関してのべき論はちょっと抜かしておきます、基本的には。二元代表制の話も少ししましたし、今、保守が強いなという話もしました。

それから、あと、せっかく書いてありますので、オンブズマンとは話したがないというのがありましたけれども、これはどなたとはちょっと言いにくいので、申し上げにくい、申し上げないですけども。成績表をつくるときに、金子さんにもお時間いただいて、ほかの人間もお話させていただいて、私も後からご挨拶させていただいて、お話をさせていただきましたが、一部の議員さんからはほとんど会ってもお話しさせていただけないというか、会わせていただけないということも起こっているという状況があります。その方お一人なんですけど、今のところ私がお声かけして。ほかの方は御連絡して、何らかの形でお時間をとるとか、もしくは、いつでも来てくださいという格好なんですけれども。道端で会ったときに、お声かけしたら、「いや、ちょっと」と言われて、お話ができないということが起こったり、なおかつ、議員さんですから、駅頭の前に立たれるということもあるわけなんですけど、そういう場所で市民の声をいただきながらという方がそういうことをなされているということは、ちょっと困ったなという現状があります。

結論で書いてますが、その先申し上げます。とにかくいろいろ変えていかなくちゃいけないものっていうのはやっぱりあるというのが現実です。それに、知ってるんだったら変えていきましょう。知らなかったんなら気づいていきましょう。気づきもしておらなかったら、気づくということをしていきましょうということを申し上げています。そういう意味で、「変わらなくちゃも変わらなくちゃ」、これは昔、日産でイチロー選手がCMで言ってたやつですけどもね、そういうのを書かせてもらっています。

とにかく、それにかかわったことを下に書いてますのと、最後、このまち独自のということで自治基本条例をつくっていく。もちろん、先ほどの総合計画でも金太郎飴という話がありまして、項目とかね、必要なことっていうのは、ほかの自治基本条例と変わらないかもしれないですけど、その中身であるとか、もしくはその根底に流れている行間であるとか、もしくは法の精神であるとかっていうところも含めて、このまち独自で、このまちで誇れる一流のものというのは何なのかと、今あるもの、もしくはこれからつくっていくという意味で、考えていけたらいいことではないかなということで、この3つのあり方と、指摘事項と問題点ということの問題提起とさせていただ

きます。

以上でございます。

○金井部会長

ありがとうございます。それではまた、時間が遅くになりましたけれども、開始時間が30分ぐらい遅れたので、このまま続けましょう。いろいろと厳しい意見もいただいたわけですが、そういうことが私は聞きたかったことです。それについて皆さんからいろいろと質疑をしていただければと思うので、御自由にご質問をお願いできますか。

○池田委員

大変ありがとうございました。基本的に、私、一番最近思っていますのは、50万都市になったんですが、いわゆる比較的10年ぐらいに川口にお住みになった方が十二、三万人、約2割ちょっとになってきたと。今、無関心、私どもはこの立場で、一生懸命新しい方にいろんなことをうたえているんですが、この接点というか、非常にどうしたらその人たちに川口市の市民として自覚を持っていただけるかというのを、私、親子代々9年目なんですが、ずっとたまたま私の場所がエルザタワーの近所なものですから、いろんな機会を設けて努力しているんですが、どうしてもチャンネルがなかなかマッチングしないということで、いろんな学校の関係とか、いろんな方を頼りにお願いをしているんですが、なかなか接点が見つけられないと。

その中で、よく私の名前に自由民主党公認候補と出ていますが、保守的なんだからとか、地域の代表なんだから話してもしょうがないというような方が見受けられるんですが、今のお話で福島さんの方から、それはどのようにしたらその人たちとの接点を持てるのか、これは私どもの保守系の議員全体が悩んでいることだと思うんですが、その辺はどんな感じでとらえているのでしょうか。

○福島氏

当然、出てきてしかりでお困りのお話だと思います。その辺を簡単にちょっとだけ。私、今、越してきて10年弱ですけれども、ちょうど去年から今年にかけてマンションの管理組合の、理事長の順番が回りまして、そういう意味ではちょうど住人と管理との中間の立場なんですね。マンションという集まりを束ねていかなきゃという部分、そこと町会なり地域という部分と、それとマンションというのはどんどん新しい人が入ってきます、ほかから入ってきますね。そうすると、マンションの管理組合をどう関心を持ってもらうか、なかなかどこからつながっていけばいいか、いつ訪ねていってもいいんですね。よくわかります、そういう点で。当然非常にお困りだと思います

し、私もそういった面で困っています。

まず、従来どおりに、チャンネルというおっしゃり方をしましたけれども、チャンネルというものがある意味ないぐらい「多チャンネル化」してしまっていることから、とらえどころがなくて苦しまれるのは当然ですし、チャンネルという概念そのものを変えていかないと、あともう一つ、チャンネルという言葉すら嫌う方もいる人が出てきているぐらい、私もいろんな市民の集まりをよかれと思って、ある意味では行政の悪口も言いながら、行政がこうだから市民が高まらないよねとかいってやると、逆に一固まりになってやるのがどうしても必要になる。でも硬直化してしまう組織というのをとても嫌う方もいるわけです。

それもそれで、話を聞くとわかるわけですよ。1つの目的があって、その目的に対して1つに集まるのはよろしいけれども、それが硬直的になってしまいうということが往々にして起こりやすいということをよくよく気をつけてやってくださいよと言っているんですよ、そういう方は。話してみると、組織に入るのを嫌うんじゃないと。実際、その方はある子育ての組織のリーダーですから、自分でやりながら、そういう問題点があるんだなということを提起したりすると。

だから、そういう意味では、すごいスピードで、さきにだれかの話でもあったとおりで、手段と人のやりとりと意識モノとがすごいスピードで変わっているというのは御認識があるとおりでしょうから、そうなるとリアルタイムで、できるだけ簡単に頻度高く、フェース・トゥ・フェースで話をする機会を持つのが、一番私は今のところできるベターなんじゃないかと考えています。そういう意味で、御提案の中でフォーラムなりP Iなりということで御提案している。

ある町会では、でかいマンションがどんと入ってきて、100戸レベルとか数百戸レベルのマンションが入ってくるので、町会としてウエルカムパーティーをやりますと。とにかく、来てすぐにお顔合わせをしましょうと。一緒に食事をして話をしたら、後の話がしやすいだろうということをやっておられるところもあって、それはなるほどと思うんです。

○金井部会長

よろしいでしょうか。ほかにはいかがですか。

○神尾委員

川口の自治基本条例の今の動きが本当に行政主体だというのは、私自身もすごく感じております。常におんぶにだっこ、自分からというよりも、いただいた資料の中で勉強をさせていただいているなど。今後も、我々公募の市民だけが集まったら、話し合いには恐ろくならないし、煮詰まらない、形に

ならない、いいんだろうかみたいなのがあるんですけども、全体像を見て、つまり全体像というのは、立ち上がり、それから委員会50名の構成、そして今現在の動き、そして今後の予想される動きなんかが、もしお話いただければなと思いました。

○福島氏

いいんですか、言って。それこそたくさんあります。が、むしろそこら辺は、そしたらまず先にこれを詳しく知っていただく、配布資料でこれをお渡ししたのは、私のホームページ、これはプロフィールのページなので、ページ下のURLで“profile”と書いてあるところから後ろを外して入力しますと、私のホームページに行くんですが、そこに今幾つか項目がある中で、当然、自治基本条例の件もトピックスで上げて、ごまんといろんなものが入っています、たくさん。大変関心を持った件です。申しおくれました、今回の委員公募にももちろん47人の中に手を挙げております。皆さんの方が大変御優秀なので、私は落とされてしまいまして、残念ながら、今日、ようやくここに口を出せると言うとなんですけれども、黙っておらずにあちこち顔を出していろいろとやると、発言ができるという機会をいただきましたけれども、ですので、そこに随分いろんなことを書いてあります。

だから、今日、ここでお伝えできなかったところは、インターネットばかりじゃなくて、紙ベースも必要と思いますから、御連絡先さえ紹介いただければ、御郵送させていただきますし、かいつまんで言いますと2つ。

まず1つは、本策定をどういうふうにやっていくんですかというそもそものところ、というのが、ずっと傍聴していて、どなたかからも委員会の中からは聞こえてきませんというのが率直な感想です。事務局側からは、伺った際なんかでも、もしくはいろんな説明、もしくは資料等の中でも全くの齟齬なく、ゼロから、1から、白紙から市民中心につくっていきましょう、だからこういう委員会構成ですよということを理解しております。ですけれども、それ以上のものがない、それが形になっているかということが甚だ疑問ですよというのが私の思いです。それがまず1点。

だから、簡単に一言で言ったら、策定の根本のビジョン、これは例えばそれなりということになったとすると、ほかの自治基本条例なり、もしくはそれに類するところがどういう過程で、どんな姿勢で、どういうふうなやり方をしたかを特徴的にわかっている方が説明なされば、で川口市の状況を見れば多分わかるんじゃないかなと思います。

長くなりますので、簡单的に、あともう一つが、ではそれが明確になったら、直ちにすなわち具体的にそれをどういうふうに進めていくのかというスケジュールリングになると思います。当然、スケジュールの案が出ていますけれども、あれに対する対抗案というのがまだ出ていない。あるところに私は

私案としてそれを御提案差し上げて、議論をしていただくようにという形でお話し申し上げました。御関心があれば、また御案内をさせていただきます。

○神尾委員

三鷹市とかと比べるとどうでしょうか。

○福島氏

三鷹は、私が聞くところだと、随分活発にやられて、市民側がかなり積極的に動かれて、市長さんも女性の市長さんで非常に頑張られて、熱心な方で議論もいっぱいやられて、でき上がって、なおかつその後にそのウェブサイトのをのぞきに行ったら、市民側としてはまだ足りない、議論し尽くしてないと、完成とは思わない、というのを見たのが私は特徴的だったなと。

これはもめているというのではなしに、完成はやはり難しいだろうということだと思うんです。総合計画もやはり3次、4次となっているという形になっていますし、今回、自治基本条例ができたらどうなっていくのか、むしろ楽しみだと言われたぐらいですから、そういう意味では、この自治基本条例もでき上がった後の整合化だけではなく、自治基本条例そのもののメンテナンスということが、当然憲法でも、9条の話はともかくとして、いろんな整合性が時代とあわなってくると、当然やはり社会が変わってくる、世の中が変わってくる。

だから、それに関すると、やはり三鷹でそういうことが起こって当然かもしれないし、逆に大和市なんかでは非常に先進的なものができたと評価されたのが、市長さんがかわったとたんに、急に何か見直しの動きが出たようなふうに聞いております。その人がそんなふうにとってそのまま言われたんだと思う。私は今どういう動きなのかは具体的には聞いてないですけども。できました、どんな内容でしたと、全部で30何か条のものを見ていますけれども、「横田基地」というのを扱っているぐらい、非常に特徴的なできかなと思っているんですが、そういうふうに聞いています。

そういうところから、（自治基本条例の策定を扱っている）書籍も出たりするんですが、それを読むのも大変ですけども、それこそそういうところをコンサルタントの方など専門にわかる方なんかにお調べいただいて、ポイントのところはどうなのか、何でそこがポイントなのかというのを逆に委員の方で検証もされて確かめていただく。効率的にほかの事例、今、川口市はこうだな、じゃこうだ、こうしたいというふうに話が進められるのではないのかなというのが私の考え方です。

○金井部会長

ほかにはいかがですか。

○神尾委員

私もこの委員会に入らせていただいて、いろんな本なんか読んだりして、「協働」という言葉が出てきたエピソードで一番印象に残っているのが、猫じゃらしが生えている公園の話なのですが、御存じないでしょうか。

何か市が何かをやろうとしたら、そんなプールなんかつくってくれるな、自分たちは年寄りで、プールなんかつくられたって泳ぐもんかと言って、何か猫じゃらし生え放題の公園を保持する、持続する、自分たちであえてその道を選んだんですね。さっき、私、総合計画の中で、何もいじらないという部分がなかったんですか、隅々まで計画が行き渡っていて、何もいじらないという部分がなかったんですかと言ったら、予算面なんかでいじれなかったところはあるとおっしゃっていたけれども、何か私は見て思ったのは、いじらない部分をもっとあっても、任せてよみたいない項目があってもいいかなと思いました。

例えば、ここはこの町はもと農家の方ってたくさんいるでしょう。その人たちは何がしたいって、もう一回農家はできないけど、土いじりしたいんですよ。でも、どこもかしこも宅地だから、緑生き生きの戸塚まで行かないと芋掘りできないんですよ。そうじゃなくて、自分のところで芋掘りというか、野菜づくりをしたい方っていっぱいいると思うんだけど、そういう遊びの土地だとか、それからほったらかしにしておいた猫じゃらしみたいな原っぱって、そこは何か穴があったりすれば、ヤゴが来るし、コオロギが住みつくし、おもしろいことがいっぱい起きるのに、みんなそこが次々整備されていってしまう。何かほったらかしの部分ってあってもいいと思うものが何となくここからひらめいたんですけども、その辺、どうでしょうね。

○福島氏

2つ、ちょっと矛盾するような言い方かもしれないんですけども、基本的にはやっぱりそうなんでしょうね。何でもかんでも道具をつくって、使いなさいというようなものがあるのかということになると、私も小学校3年生の娘がいますから、むしろ素材だけ与えて、紙とテープだけ与えると好きに何かつくりますから、むしろ空き箱とか、そういう意味では、既成のおもちゃを与えるよりも素材を与える方がとても自由に使ってくれて、なおかつおもしろいものをつくってくれて、一番それが本人の気に入った形でというのがあります。捨てるよと思うと、こんながらくた捨てるじゃあと思うのがすごく大切にしたりしますから、むしろ既成のものをつくって使わせる方が子供は育たないんですから、そういう意味では全くそのとおりだと思います。

それにつけ加えたいというならば、親にしてもそうですし、もしくは地域なり行政なりが何かを用意するというものの非常にバランスが難しいところ、どこまでやったらいいのが難しいところだと思うんですけども、単なる本

当に水をくむなら水をくむ、形が悪くてもとにかく入れ物だけでいいのか、それとも相手を見て、これは飲みにくい人だから飲み口があるようなものじゃないといけないかとか、相手によってだと思うんです。それを一律に子供なんだから、全部ジャングルジムと滑り台があってというのはちょっと違うよ。もしくは、田舎の方の公園だと、ほとんど何もなくても広場さえあれば遊びになるかもしれないし、逆に都会の子はある程度ないとだめなのかなと、むしろ何もなければソフトとして遊び方という形のものを入れてやらなきゃいけないかなと。

これは、やや矛盾する、もう一つの話に入っていくんですが、ちょっと話が飛びますが、私の大学の恩師が、自然というのはほったらかしにしておく、と逆にだめなんだ、特に里山は。里山によく谷がありますよね。そこに木の葉が落ちてきて、それを肥やしとして使ったりしますね。合成肥料ができてから、あれをほったらかしにしたんですね。そしたら、里山がだめになっちゃった。

だから、里山みたいな人と共生して、一つの計画のある自然というのは、ある程度人が入っていかないとだめなんだという距離感を持たなければいけないというふうに、そのときその事例で聞いて、これはほかの部分でもやっぱりそうなんだ、人がずっと今まで生きてきた中で、ちょうどいい距離感というのがある。全然触れないというのはまた違うんだよ、全くの未開のところに入っていくのはこれは別問題として、でも近いところにあったものはそうだ。

そうすると、そういう距離感というのはやっぱりいろんなところと言えるもので、子供を全部ほったらかしにしておくのも危ないんですよ、それは。だから、もちろん好きで山の中に入っていく、普段からもしかして生活感が広がっているから山の中に一人で入っていくような田舎の子がいるのであって、都会の子にいきなり何も無い原っぱをぼんと与えたらどうにもならないということを見ると、そこら辺が相矛盾するようだけれども、その辺のところを考えると、じゃ場所は確保しますよとか、遊び方で危ない部分はきちんと見るような者を何か市が手だてしますよとか、それとか道具はどこまでがあったらいいもので、ここから先は要らんものだからというようなことを、それをまた行政が全部やりなさいよといったらまた違う話、むしろ自分たちの子供が、もしくは地域で使うんだということになったら、地域がみんな考えていかないとということになれば、そこら辺がやっぱり協働でやっているところなんだろうなと思います。

そういう意味では、最初の質問であった中で、どこで接点をといるののいろんな多チャンネルがある中の大きい1つとしては、子供というのが僕はあっていると思っています。ただし、子供は少なくとも小学校6年間の、5、6年になると精神的に自立し始めて出ていっちゃいますから、幼稚園くらい

からのせいぜい3、4年生までの中で、どれだけ接点がつながれるかというところでは、そんなに大きな接点じゃないかもしれないですけども、確実にあるし、非常に大切な、なおかつ彼らが出ていってもまた帰ってくれるという部分もやはり少なからず僕はあると思うんです。

ある別の件でそういうことも考えていますので、具体的にここで、資料の一番下を書いてあったかもしれませんが。子供にそういうのをやって、そういうこともしていくのと、自治基本条例の件なんかでも子供を巻き込んだことで、逆にそこから大人が学ぶという期待があってもいいのかなということもちょっと考えています。

○金井部会長

ほかにいかがですか。私からちょっと一度お伺いしてみたいのが、無関心というのが書いてあります。とはいえ、無関心ということは変わるということとはもうないんじゃないかなと、それを前提に考えていかなきゃならないんじゃないかなと、思っています。昔から、無関心はよくないから、みんな関心を持ちましょうといっても、関心を持ってもらったことはないと思います。だからそれはどうでしょうか。無関心の人を前提にする自治というのはあり得ないんですか。

○福島氏

それに近いような議論もある人間とやったことがあるんですね、実は。今の選挙制度を具体的な例にとってなんですけど、投票率が下がると、非常に政治に対する関心が低くなって、憂うべき話だと、私もそれはそう思います。自分も投票へ行かなかったことはないですから、特に川口市というのは大変かなというのはあるんですが、その彼と議論したときに、じゃ投票率が上がればいいのか、単に投票率だけ上がればいいのか。いや、すごいよ今回の川口はねと、60%になっているといつて、本当に関心が上がって、政治のことをよく理解されているということなのか、それとも、よくひとところ問題にされた単なる組織票なんです。とにかく行けというふうに組織されて、言われたからというふうな動きがたまたまうまい具合にタイミングが合って出ただけなのかということからすると、ある意味、責任というものがどこにあるのかというのがよくわからない不思議な状態なんだけれども、それでもとにかく動いているのと、ひどい状況にも陥ってはいない。それこそマンマーなんか見たら、日本は非常に平和ですよ。本当に平和ですよ。

逆に、やたら関心が高くなり過ぎて、あるいはエキセントリックになったら、どうなるかという問題提起をされたんです、その彼から。いい方としてはそうは言わなかったですけど、私はそう受け取りました、彼の問題提起からね。そうなりますと、関心が高けりゃいいか、あればいいのかということ

があります。

おっしゃっていただいた点を2つにちょっと分けて考えたい。1つは、まず全く関心がないという前提の町の運営なりなんなりがないということになるんですけども、最終的には僕はなかなか難しいのではないのかなというのが私の考え方です。歴史的に見ても今後に見ても、例えば専制君主的な政治が成立して、非常に民に好意的な専制君主で、非常に仕切っているということでもみんなお上に任せて、自分は政治があることも知らない、空気のように政治があるという格好がいいという中国の故事もあるぐらいですから。でも、あったとしても人間は神様じゃないですから、どこかでやっぱり「やった」っていう、「しまった」ということはやっぱり起こってしまって犠牲が出る。それに対して困った人が関心を持たないわけがない、そうすると全く関心が起きないということはないなというのが私の基本的な考え方です。

これは、この中にも書いてある、人間が生きていく上でお互いに関心を持たないということというのは、人間が社会的な生き物であるということを中心に否定することになりますから、全くだれもお互いが関心を持たないという社会はあり得ないだろうというふうに究極には思っています。だから、その程度がどこまでありなのかなという話になるのが1つあると思います。

あともう一つは、関心の持ち方です。愛に例を例えて、その程度の話で私は資料に書いているんですが、マザーテレサが愛の反対は憎しみじゃなくて無関心ですよという話をしているんですけども、それを例にとってやっているんですけど、話をしているんですけども、じゃ関心を持ったのがすべて愛かと、マザーテレサの場合には「嫌よ嫌よも好きのうち」がわかりやすいような、関心を持っているということとはとにかく基本的に愛なんだと、そのあらわれ方なり、もしくは持ち方なり、もしくは変遷でもって憎しみになっていったりするんだという話で、無関心以外はすべて愛というロジックなんですけど、彼女の場合は。でも、現実、関心が異常な形になって憎しみがあらわれるのは、それは好ましいことではありません。私もそんなものがないと思っています。そうすると、それぞれ論じないといけないというふうに、関心があればいいという話でもないということにつながるわけで、これは後者の方はちょっと質問と趣旨が違うかもしれませんが。

○金井部会長

実際問題は、関心は持たざるを得ないというときだけです、僕は関心が高まると思うのは。普通は、投票率だって低いだろうし、関心を持つ人はいないし、フォーラムを開いたってどうせ人は来ないしと、それでいいんじゃないかと思っています。それを無理に何か関心を持とうとかいうと、何か面倒くさいことを考えるのは何か疲れそうだなと、受け取られるのではないでしようか。

○福島氏

時にはそういう話も聞いていますし、そういう方もやっぱり多いようですし、そういう考え方にもなってきていますし、難しいところで、そこら辺の結論を出すのまで、なおかつ、いや、やっぱり1つにまとまらないという部分の方もつつ、なおかつ、いや、わかる者で集まればいいという形で、わかる者だけでいっちゃっているというところもありなもんですから、どこに落とし込もうかというところでは、私のよって立つところは、できるだけ多くの人が関心を持って集まるのがいいなというのが、私個人の意見ということで答えさせていただければ。

○池田委員

やはり無関心が一番今回の気がかりなんですけど、私は行政に携わっていますが、無関心というのは、自分に直接利害関係があるときには非常に関心を持って、大変時間をかけて手間をかけてやってくれるんですが、そのことが解決してしまうと全くまた無関心を装うけれども、比較的、今言った私どもの近隣の方たちは、アンテナを立て、非常に関心はあるんだけど、基本的には自分に余り利害関係がないものについては無関心を装っているということは、現状はある程度是認しているというか、認めていけて無関心なのかなという、最近はそういうように解釈してやっているんですけど、その辺のところ、今、いろんな活動を福島さんがやっている中でも、無関心の方をなるべく関心を持たせようということで努力なさっているようですが、その辺のところは実際どうなんでしょうか。

○福島氏

結局は、全員が全員に関心を持ってもらうなんて無理です。それこそ、自治基本条例を、50何万人の市民全員くまなく理解してもらう、これは無理だなというふうに、でも50人の委員プラスあと50人プラス50人、数百人くらいかなというのは、それは自治基本条例として機能せんやろうというところから、じゃどのレベルが適切なのかなということをできるだけの方と議論しながら決めていくような形、例えばこの件について。

自分の活動を思いやりながら、それは数名でもって集まって、数名だけで何でも町のことを考えてもやっぱり違うなと、どこかでやっぱりいろんな人たちに集まってもらってと思う。それでもやはり必ずしもフォーラムには来ない、集まってくれない。でも、少なくとも、ある意味先生がおっしゃるとおりで、何万人も集まってもらって、これは東京ドームを借りなきゃという形にならなくてもいいとは思っているんです。第一それは無理ですし。

ただ、その場所を、そういう集まれる場所をとにかく持っている、いつでもオープンになってある。関心が薄れた、でも何かのきっかけがあって、直

接に関心が出た、もしくは全然別のことをやっていて、たまたま帰ってきたら似たようなことをやっているじゃないか、これはほうっとけないといって、改めて関心を持つという形で帰ってくる場所があるというのを持つことが大切なんじゃないかなと思っているんですよ。ただし非常に辛く感じるんですよ、（場所を作って待っているということをやっている側にとっては）。

○池田委員

もう一件は、当初、私ども自治基本条例の策定委員会で、市民の代表が47名の応募をしてくれて、それで、そのうち25名になりましたよね。そのときに、傍聴について最初に話し合っ、相当少なくともその方たちは毎回、やはり選に漏れたけども、やはり応募したという熱意があるので、傍聴に来ていただいているのかなというふうに思っていたんですが、なかなか傍聴に、私どもとして考えた一番根っこになる方、今言った基本的になる人たちが傍聴に来ないという、その辺のところをどうしたら来てもらえるのか、それをやってもむだなのか、それはどのように考えていらっしゃいますか。

○神尾委員

そこなんですけど、同じ市民だけじゃなくて、議員の方もほとんどいらっしゃらないなと思うんですね。

○池田委員

私どもの仲間ね。じゃ、それも含めて。

○神尾委員

傍聴にいらした議員は、白根議員が1回来られましたよね。そこも含めて。

○福島氏

1つには、まず、これは具体的な事例です。実際に、多分お調べになったら、事務局のほうでわかると思うんですけども、自治基本条例に関してこうこう考える、こんなふうに思う、それこそ1つ声を上げられればというのに似たような件ですけども、書き物にしたものを送っていらっしゃる方がいると。ところが返事がないと、これはがっかりしますよ。一生懸命書いて送っても何も返事がなかったら、例えばね。いや、それでも本気だったら、無償の愛で待っているだけでもいいということも言いたいという気持ちがあるので、それはがっかりしますわねというふうにお聞きしたんですけども、そういうのもあるから、そういう意味でも私はやっぱりお見合い状態になっちゃっているのかなと。

だから、お見合い状態って、難しいじゃないですか、最初。だれでも最初

から「愛している！」と言って抱き合えないから、おずおずと、おまえなんか嫌いだよみたいなのか、はじから見ながらちらちら気にするとかというような状況ですから、それは本当にこの町個別のカップルというのがどうでき上がっていくのか、お互いでつき合いながらやっているとはわからないだろうなと。

言えるのは、これは個人的な話になってしまうんですけども、御自身でもお付き合いが先に出て、どうしたか、受け身でいたか、待っていたか、それとも積極的に攻めていって落としたかというのは、それぞれのケースでやっぱりあると思うんです。それは相手を見ながら、私の場合だと積極的にどっちかというといく方です、例えば。いろんな件で、やっぱり出てくると思うんですね、これからね。それに対して、できるだけ自分が受け身でいた方がいいと思われる方はやっぱりそれでいいんでしょうし、逆に積極的に出てこられた方に対して、それはおまえ違うよというのか、もしくは受け身なのを受け身にいけないとかいうのもやっぱり余りなしだと思って、それぞれの方はそれぞれの方で、自分がどうしたらいいかということと、よかれと思ってそれをされた方をできるだけ受け入れられたら、それが一番ベターですけどね。

私の場合、とにかく出ていくという形で、来させていただいておりますけど。

○金井部会長

ほかの方がもしあれば。

○砂沢委員

質問とかという形じゃないんですけど、お話をお伺いしていて、すごく僕が共感できたのはやはり無関心という部分です。逆に言うと、例えばちょっと憲法のこともおっしゃっていましたが、もしかしたらこういう、当然、国のことにも関心ない人もすごい多いですし、やはり無関心な人が多くなるというのは当たり前なだけども、でもそれをそのままにしていたら絶対多分町もなくなっちゃうし、この国も多分なくなっちゃうと僕は思っているの、そのための場をやっぱりつくることというのはすごい必要だなというふうに痛感しています。

例えば、先ほど選挙のことをおっしゃっていましたが、そういった意味では僕らなんかはやはり公開討論会みたいなことは例えば必要だと思っていますし、そういったことは多分僕らはずっとやっていくつもりです。自治基本条例をつくると、やはりつくる過程なり、そういったところに関心を持ってもらうということは、ひいてはやはりもちろんまずみんなが関心を持つというのは、先ほど池田委員さんがおっしゃったように、自分の権利や自

由が侵害されるのは多分すごいがと牙をむくと思うんですけど、それでも多分関心がない人の方が多分多いと思うんですね。

でも、多分、それじゃ本当、地域にコミュニティーが多分成り立たないので、今は本当に特段まだ問題ないからいいんだと思うんですけど、やはりそういったための、やはり自治基本条例を考えること自体がそういった無関心さを減らしていく1つの機会なのかなというふうにちょっと僕は感じました。済いません、感想的な形になってしまいました。

○福島氏

よくわかります。いろんな会議に集まっていて、こんな性格なもんですから、要は目立つ方、準備する方、来いよ来いよと言う方なもんですから、それに人が来ないと、本当に一生懸命やっているのに、何でみんなこっちを振り向いてくれないんだというのが、よかれと思ってやっているのにということでは全く同感ですし、だれも向いてくれなかったらどうなっちゃうの、いいのというのはすごくよくわかるけれども、同時にこれを一步間違えちゃうと、これは僕はうちの中でよくするんですが、おれは家のためによかれと思ってやっているんだ、言うことを聞けよというふうに、こうなっちゃうので、「上から」になっちゃうんですね。これはかみさんに家でも指摘されますし、うちは特に共稼ぎだから余計に、「あんただけがやっているんじゃないわよ」という形にもなりますし。

逆に関心を持っていないくてもいいじゃないという話もありましたけども、むしろ関心を持ってなくて当然というのは当然なんです、だって持てないですもん。私、変わり者です、はっきり言って。昼間、仕事、プロフィールでも書いています、昼間仕事をして、晩、こういうところに寄って、合い間見てこんなもん（：当日の配布資料）作ってなんていうのは、相当、変わり物ですよ。

普通、仕事をやっていて、仕事を本当に一生懸命していたら、こんなことをやっている暇はないんです。だから、二足のわらじを履くというのは非常にね、坊主やっているときは三足なんですけれどもね。そういう意味では本当大変なんですけども、変わり者なもんですから、変わり者だけ認められるのはまたおかしい。本当に一生懸命やって、だからこそ認めてもらいたいんだから、普通の中から変わり者で一生懸命やっていたら認められたいんだけど、それを「認めてくれよ」とやっちゃうとまずいですよね。そこを気をつけないと、よかれと思っていることが逆になったりします。

そういう意味でも、今日、一連のお話をさせてもらっていて、ディスカッションの時間なりが自分としてはよかったと思うのは、むしろ関心がなきゃいけないとしちゃうと、ちょっとやり過ぎちゃうから、分けて考えないといけない。むしろ、関心を持ってもらおうとしたら何をしたらいいかというふ

うにやる方が考える。関心を持ってもらえない方がいることに対してどう思うのかというのは別問題です。

下手すると、それこそ選挙の話でも、投票をしない人には罰則を与える、もしくは投票は義務ですというふうにしちゃうと、ちょっとまた違ってくる。そういう意見もあるんですよ、気持ちもわかるんですよ。極端なことを言っちゃえば、100%の投票率で全員が投票して選挙の結果が出た場合、その政局は荒れますよ、たぶん。おれもこいつに投票したんだけど、こいつに信任したのに何だの政治家は、とか思いますよ。

でも、それがそうじゃなくて、低投票率が今こうなっているのが何でこういうふうにしの中比較的安定して落ちついているんだろうかというのがすごく不思議だし、理由もわからないですよ。そこはまた別の議論でも長くなっちゃうんでやめますけど、それはそれであるんですが、そこはちょっと気をつけないといかんだろう。でも、関心を持ってもらう努力を何かよかれと思ってやっている側は、もしくは行政なり、取りまとめをするなりという人たちは、腐心していくことは重要なんだなと思います。

ついで、市民もこれをやりたい、これをやってほしいというふうに手を挙げる人も、言うんだからにはそれはやらなくちゃいかんと。それこそ金井先生が講演で言われた、権利と義務が生じる部分、自分が権利を主張した場合、自分に義務が生じるのではなくて、相手に義務が生じるんだから、それをちゃんと理解しなさいということを私、必要だと思っていますよね。権利だけで存在するものではないということで。

○金井部会長

ほかの人はいかがですか。

○神尾委員

川口市の歴史みたいなものをずっと学んでいたときに、選挙の広報紙、何かそれがここにはないからつくるべきだというものを行なったグループも福島さんも関係しているんでしょうかね。

○福島氏

成績表のことですね、さっき私が言った。

○神尾委員

成績表というのはお写真がいっぱいあって、発言回数がどうだこうだというのだと思いますが、それもお聞きしたいんですけども、何でつくったのかなと、つくってどうなったのかなというのもお聞きしたいですが。

それと、もう一つは、選挙をするときに、何か公約とかを書いたちゃんと

したものがこの市はないという、だからそれを公約をちゃんと明記したものを発行しなきゃいけないんだというふうにしたというのが、昭和の終わりが平成の初めにあったと思ったのですが。

○福島氏

まず、私の知っている範囲では、私が今幾つかいるグループ、オンブズマンを含めて、そういう経緯（昭和～平成のころに選挙公約を明記したものを、との声を上げたこと）があったグループは聞いたことが今はないです。

それと、選挙管理委員会で、今、選挙の方はどうでしょうか、公職選挙法で選挙広報をつくるようにたしかになっているんじゃないんですかね、でしょう。ですので、そういう動きは多分市民からする必要は、よっぽど近代の時代だったらともかく、戦後はないはずです。

○神尾委員

じゃ、勘違いだったのかな。

○福島氏

もう一つの方は、「みえたか」（：議員の成績表のこと）というやつですけどね、名前をつけているのが。私ども、私どもと言っちゃいけない、今日は。私がかかわっているグループです。

つくった経緯は、去年来かその前からですね、話は。全国的にも政務調査費の件がいろいろあって、この町で政務調査費の件を調べたら、収支報告書がそれぞれ会派なり議員さん、無所属の方は、出てくるだけで、その詳細が項目以上の細かいところが出てこない。もちろん領収書も見れないという状態で、これはわからないのか、何がわからないのか。見せてくださいという質問状を出した。そしたら、見せられるように頑張っていますから、見守ってくださいという返事が来まして、ちょっとそれだけじゃ答えが足りないなと思ったので、ほうっておくわけにもいかないし、全部で5回にわたって質問状等を出したということがあります。それを私のホームページにリンクしている川口市民オンブズマンのホームページの方に、私の方でも政務調査費という項目を設けて掲示しています。そこら辺を詳しくまた。

それを通じて、議員さんがどんな仕事をしているのかということについて、改めて関心を持ったもんですから、いろいろ勉強させていただいて、議会の議事録を読まさせていただいたり、それぞれの議員さんがどういう委員会に行かれていて、どういうお仕事をされているのかというのに関心を持ったところで、これは全員が全員しっかり仕事をしているのかどうなのかちょっと不思議だなというふうに率直に思ったんですね、44人。なおかつ44人が40人となったということで、さらに少なくともいいかもしれないという議論が

あってみたり、これは議員さんというののお仕事にそれこそ関心を持ってもらうということをする動きをだれかがやらないと、せっかく議員さんがおられるので、議員さんが一生懸命やられていることに関心がないのは、それこそ一生懸命仕事をやっているのに、みんなだれも見えてないという形になるのも寂しかろうというのも実はあるんです。

その中で、いい議会にしていきなり、いい仕事をやったらみんなで評価しようということもありつつ、少なくとも今回は見やすい形にまとめる。それこそホームページを見れば、議事録も載せてあるわけですけども、なかなかそれを見られるスキルを持った人もいないし、実際見てみても、あの字面をがっと、僕の配布資料も文字ばかりで見づらいと思うんですけど、こんなふうに一覧表にしないとまずいぐらいに思うので、ああいうふうに写真入りに。

1つポイントは、競馬の予想新聞みたいにしたら見やすいよなというのがあって、ああいう格好にしたというのがちょっと裏話になりますが、ああいう形をつくってみた。継続的にやってみようという考えで、あの成績表作りの言い出しっぺは私自身です。

○神尾委員

反応とかはどうですか。

○福島氏

反応ですか。反応は、紙媒体になって、余り配るとごみなるということもありまして、環境的なことも一方で私やっているもんですから、紙ベースでいっぱい配るのをやめようと。そういうところから、とにかく口コミ、口伝え、手渡しレベル、それとマスコミ、マスコミはほとんどこっちを振り向いてくれなかったです。それはそうです、ちょうど統一地方選の時期のど真ん中でした。それは選挙の方で忙しいでしょうし、難しい、当然だと思っています。

それでも、やれたし、よかったというのが1つ。それだけじゃ自己満足なんですけど、ただ、県のオンブズマン及び全国オンブズマンから、これだけのことをこれだけやったというのはなかなか画期的だということで、ぜひどういうふうにやったのか教えてほしいということはよく連絡が来て、いや、こういうデータベースをつくって、こういうふうにやりましたという形ではお教えしています。

それから、あと私が世の中にじわじわと、一部では私自身が避けられるということもありつつ、要は半分冗談でブログに書いた、「日ごろうるさい福島に釘を刺しておこう」、ここは冗談で書きましたが、でも実際には日ごろうるさいと思われる節も一部にはどうもあるような形で、じわじわと受け取っていただいているんじゃないかという反応が来ております。そんなと

ころですが。

○金井部長会

川口市が全国で先進的とはいいがたい状況ということですが、具体的に何がだめなんですか。

○福島氏

町のことですいろいろ聞いておられると思うので、それこそ今回、5つの部会に分かれてきたということもありますし、それ以外の例えば文化であるとか、もしくはほかの資料で誤解を受けるかもしれないけど、あえて出させてもらっている市民、文教の部分であるとか、それとかもしくは経済的な部分であるとかというのを見たときに、市民の経済的な部分というのは余計なお世話ですけども、例えば、私、以前に倉敷に住んでたんですね。あそこは大原美術館というのがありますけれども、大変いい絵が置いてあって、その都度行くんですけども、本当にたくさんいい絵があるんですけども、常設展からしていいのがあって、特別展なんかさらにすごいのが来たりするところ、一方で、前回来た永瀬さんに悪いんですけども、「アトリア」の方で今回クロード展で、私、親子で行きましたけど、最終日に行ったら市長さんとちょうど会いまして、ごあいさつをさせていただいたんですが、田中邸なんかも非常にいいなというふうに思ってたんですけども、じゃ常設展ということになると、どんないいものがこれから置かれるのかとか、運営を考えていく場合、まだまだこれからだな、アイデアで、それこそ自治基本条例で子供に町の絵をつくらせるというイベントがあって、それを常設展にするのはどうかとか思ったりするぐらい、まだまだ余地があるというところでは、まだまだこれ一例です。

ほかにもS K I Pシティをどのくらい使いこなしているのかとか、玄関口から川口はきれいという話をしてきました。じゃ、次はどこなのかという話とか、玄関口の川口の駅前を状況を見たときに、出入りがありますけれども、意外にパチンコ屋さんが多いな、もしくはゲーム屋さんが急にあるなとかいう部分は評はいまいちだとかという部分。

だからこそ、一方で、私のうちにもたまたま来ましたが、景観のアンケート、その当該地区にとっていますよね、栄町3丁目の地区に景観のアンケートをとっています。そういうこともなされておられるということも申し上げたいんですけども、まだまだそういうところではこれからなんだろうな、やっていくことはたくさんあるんだなということで、まだ先進性を備えていないという評価を行政もたしかしておられると感じます。ほかの町に住んでみても、もしくはもっとこういうふうに見える余地があるだろうなというところからも、いかがでしょうか。。

○金井部会長

今の政策的な話で、倉敷を例におっしゃったのは非常にわかりやすい話だ
と思うんですけども、それ以外、自治とか、行政経営とか、議会の点では
どうですか。どこがだめなんですか。

○福島氏

まず、議会を率直に言っちゃうと、今回、政務調査費の件でかわりました
から、質問状に関して非常に簡単な一文がほんと1回来て、去年の3月議
会で、新聞にも載りましたので御存じの方がほとんど、今期かな、領収書を
トライアルでつけてみましょうということに決まって、その決まり事もでき
たというふうに新聞記事で聞いております。けども、せっかく質問を出した
私どもの方に、こうなりましたよというのがないなというのと、もしくは新
聞記事に出たのと、あと広報かわぐちに、3月議会でこういうことが決まり
ましたというのがワンノブゼムになっているというのが、市民が関心を持っ
て質問状を3団体で連名で出して、ほかにも出したところへの扱いかという
のはとても寂しかったなというのが、まず具体的な直近の状況としてありま
す。

それからあと、市長なり行政なりに、これは個人的な話ですが、今回、自
治基本条例の話に関して質問をお送りしたときには、すぐ答えが返ってきて、
なおかつまた細かく聞いたら、今度は担当部課がという形で、押田さんにご
縁ができたわけですけども、大変ありがたい内容で、いいご縁ではと思っ
たんですが、それ以前にもう2つぐらい質問を「市長への手紙」に出してお
ります。

そのうちの1つがアリオ、これは大きいなと、町の航空写真を見ても、サ
ッポロビール工場を全部使うわけですから、場合によったら近隣のところも
ということからすると、でかいなということで、非常に事細かく安全はとか、
周囲のとかインフラはとかいうのをどんなふうにお考えなのかとか、もしく
はどんなふうなことが考えられているのか、いかがでしょうかというのは全
くお答えがなかったというのはありましてですね。

それとか、最近ではこの自治基本条例策定委員会の件で御質問、メモを上
げていらっしゃる方が、いや、返事ないんだよねということがあったのなん
かを見ると、なかなかそこら辺の距離感が詰め切らない、もしくは忙しくて
手が回らない、やることが多過ぎちゃっているのかなと、整理がし切ってな
いのかなと。

あと、もう一つあった。もう人口が50万超になって、必ずしも何かは言わ
ないんですけども、非常にいろんな権限がおりてきて、市民の立場から見
ると、今まで市で決裁できなかったものが決裁できるという、「中核市」にな
れるということがあります。これに関してどうなのかという話を聞いたとき

に、2つ問題があってまだいいよと。まず、なかなか手が回り切れないと、そこまでできる事務、行政能力というのがそんなに簡単にいかないですよ、それは。市民ももっと手伝えというのも当然あるでしょう。もちろん、ない袖はないですもん、そんなできないことをできるなんて言えないもん、それは当然だと思います。というのでは、できるという格好にするということで、これからまだやれることがあるということだと思います。

ある地区では、そこまでいなくても、いろんな特区を申請してみたりなんたりということをしてはいますが、そういうところも川口はそんなに多くはない、この町からも聞いたことがない。ある件で特区の調査を、仕事で本職でしたことがあるんですけども、川口市の名前は聞いたことがないというのがあります。そういうところがちょっと。

○金井部会長

具体的で非常にわかりやすいと思います。ちなみにアリオというのは何ですか。

○福島氏

ショッピングセンターです。

○金井部会長

郊外型のですか。

○福島氏

いえ、駅から歩いて10分でマンションも併設型の、その中に美術館もというか、隣に、そこだけは市の土地ですという形で、複合施設なんです。

○金井部会長

そういう計画があるんですね。

○福島氏

リボンシティといいますけども、あれはあれ全部でリボンシティじゃないですよ、アリオとリボンシティに分けて今は使っていますよね。主体が別ですからね、住宅と商業施設と。

○金井部会長

あとほかにいかがですか。何か、よろしいですか。

○妹尾（野村総研）

関心を持つか、無関心になるかという議論で、非常に私は共感するところがあったんですが、また私も意見がまとまっている段階じゃないんですけども、もう一つの観点としては、信頼しているかどうか。人間関係というのはおわかりのとおり、あなたのことを信頼しているから任せたよという無関心に近くなるもので、あなたのことを信頼しているし、一緒にやりましょうという関心の方にいく場合もあります。無関心の背景を見ても、全く信頼はしてないで、行政はあてにならへんとか、議会もどうせだめやろうとか、そういうふうな無関心なのか、あるいはできるから任せておいていいですと、それなりに大きな問題は自分たちの生活にはないから、それで無関心でいいんですと、2種類あると思うんですね、無関心には。

別に統計をとるわけでもないんですけど、本当、福島さんの印象でいいんですけど、どんなふうにお思いでしょうか。

○福島氏

私が見てですか、これはもうわからないですよ。それこそ・・・。

○妹尾（野村総研）

多いかどうかでなくてもいいんですけど、1つは行政とか議会に対して市民の信頼が高いのかどうか。例えば裏金とかの問題があった市とかについてはかなり信頼が低下していると思うんですけど、川口ではそのようなことはないと思うんですけど、そのあたりはどのような感触というか、個人的な見解で結構です。

○福島氏

個人的な見解は、格好よく言っちゃうと、先ほど一番最初に戻るようですけども、多チャンネルという話をしましたが、ばらばらだと、ある意味、だからわからない、言えないですよと言ったんですよ。というのが、一例を挙げて言えば、行政なり、もしくは議会の方のことを勉強してわかって、いろんなことをそれなりに理解して、それでもここが問題だな、でもここは一生懸命やっているな、もしくはこうならざるをえないんだろう、ここまではできているよという形で、ある種の信頼を持っている。不信感を持っているわけじゃない。でも、全幅の信頼を置いているわけではない。

気づいてないかもしれないとか、もしくは一部にはやっぱりしょうがない人がいるんだ、わからないけどとか、あの人とはとんでもない人だよ、というようなことを聞いているからというような形で、そこら辺がないまぜになっている。人によっては、それが突出して多い人がいたりして、もともとの政治家は信頼できないし、政治は重要だと思うけれども、政治家は信頼でき

ないって、わかり切った言葉なんですね。これすごく特徴的だと思うんですよ、高校、大学生なんてね。政治のことは大切けども、でも政治家は信頼できないという言い方をする。それもそれで彼らの見方の1つなんだなと思いますし、逆に全く信頼しちゃっていてお任せ。だからこそ、何か相談しても、いや、よくわからないからとにかく判断お任せしますからいいようにやってくださいよという形の方も、それはそれでいらっしゃる。比較的年配の方に多いんだろうなと思うんです。

これは川口の場合どうかということになると、地区地区でちょっとずつ色が違うのかなというのが直感的な印象、これは特に前回、永瀬さんの話を聞いて、余計に川口という町が合併ででき上がってきた、いろんな地区が合わさってできてきた。今でも、地勢的な問題から、交通網の問題であるとかいうことから、もしくは現実、川口の南の方はいろんなインフラ、とにかく玄関作りに努めましょうと、でも安行とか戸塚の方で下水道がまだとか、プロパンガスを使っていますよというのを実際に歩いて、町中で歩いてみると、そういう違いがやっぱりあるところから、住んでいる方々の印象の差というのはやっぱり自然と出てくるでしょうとか、もしくはもっと突き詰めて言えば、住んでいる人たちの職業がある一定の工場なりなんなりで、ずっと働いてきた人たちの団地のあるみたいなどだとすると、そういった方たちの間でも考え方なり政策なり、イデオロギーなりが深く影響してくるんですね。具体的にそういう場所があるような話も聞いたことがありますが、それが実際どこなのかはちょっとはっきりと私は認識してないんですけども、そこまで勉強し切れてないんですけども、そんな話も聞きますから。

少なくとも、私がいろんなプロフィールとあとホームページでリンクしているいろんな団体の方たちと話しているレベルだと、郷土、郷土と言いながら、郷土の場所のことを話し合おうというところの有志の集まりに、市民以外になかなか自発的には来ないというところでは、信頼というよりは残念がっているという感じ、もっと来てくれればいい。

一方で、その一部でも、それは下手に出ていったら怒られちゃうって、怖いんですよ、それは。という理解を示している方もいます。それは怖いだろうと、責められちゃうだろうと。やっぱり最初に冒頭に言った、お見合い状態での詰まっちゃったなというのが結論です。

○金井部会長

終了時間が近いんですが、もうよろしいでしょうか。

それでは、すみません、いろいろとお話をいただきまして、どうも本当にありがとうございました。